

本年度省文部科学研究費配分きまる

文部省

文部省では、去る五月十六日、昭和三十五年度の科学研究費の配分を決定した。この科学研究費の対象となつた研究課題は合計三、一四一件、総額二八億三〇〇〇万円であるがこのうち、医学関係では、総合研究四十五件(五、三〇〇万円)各個研究三六件(五、六二五万円)科学試験研究四十九件(これは臨床のみ)、九、三万円)と決定されている。

本学関係では、一般機関研究をはじめとする十四件であるが、この中で特にガソルの機関研究への配分が注目される。次に本学関係の研究課題ならびに配分内訳をかかげる(単位は万円)。

教室のぐら

⑥整形外科教室の巻

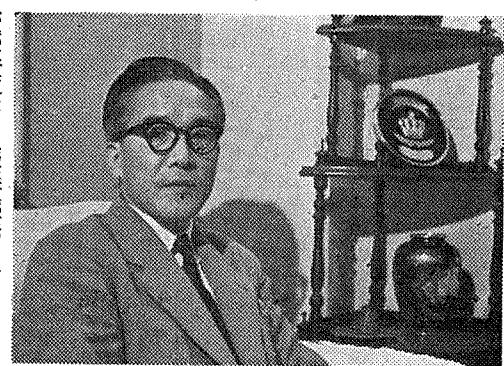
早朝の大病院行きのバスが玄関に止ると、どつと人波が吐き出される。その中の一群はやはり嬉しい弁解をさせられる。「先生、今日の新患、四十人ですよ……」看護婦の半ば驚愕に似た悲鳴が耳に飛び込んで来る。「再来は?」「百人です」診療への新たなファイトが起きる。たまには「あっしの入院はどうしてくれるんです、もう一ヵ月も待たされたもの」ではない。新規教室といわれて嬉しい弁解をさせられる。

当科のこじらした昨今の診療の繁榮は、一朝一夕にもたらされたものではない。新規教室といわれて嬉しい弁解をさせられる。

当科のこじらした昨今の診療の繁榮は、一朝一夕にもたらされたものではない。新規教室といわれて嬉しい弁解をさせられる。

脊椎外科の旗手として

…パイオニア精神で躍進…



（写真は鈴木次郎教授）

ばバイオニアスピリットである。因みに、このバイオニアの現の運動器疾患へ新たなメスを加え、最新式の筋電計

を用ひながら、せつせと地階入室へ吸い込まれてゆく……。これが、極めて柔軟な未来への可能性が約束されている。いや

新規が約束されている。いや

第六回医学生セミへの展望

当面する学生運動の諸問題の中では、第六回全国医学生セミナーは、医学連主催、神戸医科大学主催で今秋11月20~23日開催される。テーマは昨年に引き続き、「医療制度の諸矛盾」の連続討論に加えて、本年は「医療制度並びに医学生の問題」。

委員会により成る小委員会によって、数回にわたる論議が重ねられ、更にアンケートによる、一般学生の意見をも加えて、「のはな祭」の主旨が決定された。

すなわち、八十五周年記念祭を契機として、とかく沈滯しがちな本学を発展せしめ、同時に、市民との結びつきをより密接にする。

六月末には、実行委員会が組織され、井村介雄委員長、松江寛人、大倉正樹副委員長を要として、この主旨に基づき、計画案は、より

期日

場所

日程

卅五年十一月廿一廿三日
神戸医科大学

第一日 開会式・総会

第二日 分科会

第三日 分科会

第四日 総括・閉会式

第五日 総括・閉会式

第六回セミナー日程

と規定した。だがそうした総括のなかで、それがかつての運動を上に何を急ぐべきかといえば、組合主義的運動の盛り上がりはならない。そういう運動の盛り上がりは、必ずしも前から示したといわれる。

学生運動は、安保斗争を通じて空

前の盛りを示したといわれる。

医学生においても、関東ブロック

では殆んど全ての学校が国連セ

に参加し、六・一五当日には医

して、既存の左派勢力指導部に対

して、既存



特集 安保改定をめぐり 我々はどう動いたか

—アンケートから—

に肯定的評価を下す、金連、本大会で分裂す。

止活動について総括す。

参加者は七割強に

国会周辺デモで

◎七月十一日 本学自治会安保阻に肯定的評価を下す、金連、本大会で分裂す。

CがB上回っていることは一過性の興奮でないことを物語つてゐる。その動機については、一番

に関するもの。二、デモの方式に

表として「今理性をもつ」とする共産主義の扇動のためには決して何故に強行しようとしているか

でないといふこと。元来、腰の重い本質を理解した上でなく諭

めぐる政治の風波は五月十九日の採決を契機として、ついに我々の身体にもその怒涛を吹きつけた。もとよりしづかにねれつ抵抗していた人もあるが、我々が自らの問題、民主主義の危機として、今新安保が通った今、我々は冷感じてはつきり感じ取ったのはその時以来である。クラス討議、学生集会そしてデモ・デモ・デモ……風は吹きまくった。そして学生にアンケートし、安保意識と行動を調査し、かつての経験と自治会の統一見解とで安保闘争特集を試みた。今後指針の一助となれば幸いである。

今回行ったアンケートの要領は次のとおりである。

今回の安保改定をめぐる事態において、本学の学生の動きは異常に高まりを見せました。数回にわたる国会モニに参加した方も多かつたと思います。当編集部ではその実態を調査しましたのでお読み下さい。

A全然参加しなかつた。

その理由――

一、新安保に賛成だから

二、デモ参加状況について

当編集部ではその実態を調査

した方も多いと思います。

トを作りましたのでお読み下さい。

一、デモ参加状況について

二、その他の――

ハ、都合で行けなかつた

口、学生の本分を越えている

と思つたから

ハ、都合で行けなかつた

口、学生の本分を越えている

